



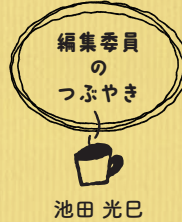
夢よ もっと ひろがれ



Illustration by
Utako Arakawa

秋の実りの時季になり、「新米入荷」という貼り紙を目にする機会が増えてきた。昨年から続くコメ不足は「令和のコメ騒動」と呼ばれ、多くの関心を集めてきた。日本の主食であるコメが品薄になり、各地のスーパーから消える事態にまでなっていた。昨年の春頃から価格も高騰し続け、今年の夏には1年前の約2倍に届く勢いだった。政府による備蓄米の放出でコメ価格をけん制しつつ、秋の新米が出回り始めれば価格も落ち着くとの報道もあったが、高止まり感是否めない。ここ数年の猛暑は今年も衰えず稲作にも少なからずの影響があり、価格は新米が出回り始めた今も変わらず高値のままだ。

農地を減らしてきたこれまでの減反政策からの見直しも発表されたが、時すでに遅しと言わざるを得ない。完全に後手に回った感じだ。そこに加えてアメリカの関税政策でもコメの話題が出てくる始末で、アメリカを「米国」と表記するのも何だか可笑しくなってくる。まだまだ令和の米騒動は、終わりそうにない。



50代も半ばを過ぎると健康診断を受けるたびに、再検査や要精密検査が増えてきました。先日の健診では、高血圧と体脂肪で特定保健指導の呼出しが……。幾つになっても呼出しは嫌なものです。

編集委員
です

わたしたちがつくっています

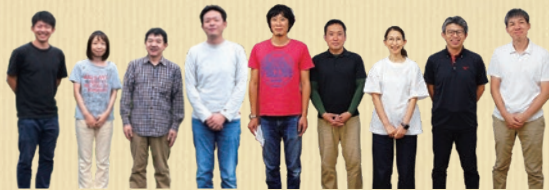


ご感想とふちっこメンバー
投稿募集！

みなさまのご意見やご感想、みんなの掲示板『ふちメン』への投稿お待ちしております。



夢よもっとひろがれ vol.216 みのり
2025年10月発行
発行・編集：社会福祉法人いぶき福祉会
〒502-0907 岐阜市島新町5番9号
TEL：058-233-7445
メール：ibuki.m@ibuki-komado.com
法人サイト：https://ibuki-komado.com



藤澤秀人 初瀬尾久美子 池田光巳 藤澤亮太 川瀬悟 山本昇平 山本友美 北川雄史 森洋三



もくじ

- p3 はじめに
- p4-6 仲間のすがた
- p7 [新]あいだをあむ：篠田 花子
- p8-9 わたしと息子といぶきと
- p10-11 いぶきのものづくりストーリー
第二いぶき にじ「福張り子」の物語
- p12-13 情報掲示板・活動報告
- p14-15 情報掲示板・寄付御礼
- p16 寄付御礼



紙面のフチ、みんなのスペース『ふっちょメンバーズ』は、
読者の皆さまよりいただいた投稿を掲載しています。
★投稿は裏面のQRコードよりお待ちしております♪



作者の紹介

夢よ
もっと
ひろがれ

タイトル：白木祐さん



イラスト：荒川詩子さん

待ち侘びた秋空をみあげておられることと存じます。

いぶきでも、散歩にいこうとかけあう声が心なしか軽やかです。

心地よさにまかせて、皆様からいただいたメッセージをご紹介したくなりました。

「小学校2年生の時以来会ったことがありませんが、懐かしく、立派に社会生活がおくれるようになられたことが嬉しかったのです」年次報告書で教え子の写真をご覧になった方より。

「翌日からペットボトルのキャップもラベルもはずして捨てています」リサイクルセンターの仲間の記事をご覧になった方々より。

「いぶきのみなさんから大切なことを教えていただいたきたのは、この子のためだったのかもしいないと思えました」長く応援してくださっている方が、お孫さんの将来を思いながら。

「障害のある人は自分ではできない人というイメージをもっていたけれど、いろいろわからないことを教えてもらったりしました」職場体験にこられた小学生より。

特別なことはできないけれど、私たちの日々の営みが社会のちいさな灯火となることを願います。これからもいぶきにつながる人たちの物語をお届けし、たくさんの新しい結び目を生み出す場でありたいと思います。ひきつづき、どうぞよろしくお願いいたします。

法人本部 北川 雄史

仲間のすがた

大竹 亮輔さん
おおたけ りょうすけ

北部事業部 宮下和也

豊かな毎日を笑顔でつくる



秋に収穫するサツマイモの苗を植えます



リハビリ台に座って紙芝居に夢中



がんばって隣の部屋まで行きます

大竹亮輔さんは第二いぶき「こらぼ」に通い始めて18年になります。車いすに乗っているときや、マットの上でゆっくりと横になっているとき、まわりの仲間と職員との会話ややり取りをじっと観察して楽しむことが好きで、となりの部屋で何か楽しそうな声が聞こえると「何が起きているのかな?」と体を起こし、両手足をうまく使いゆっくり進むことができます。

毎朝「おはよう」と職員から声をかけられながらこらぼホールに来ると、まずはトイレに向かいます。そこで男性職員と2人きりになり、「うふふ」と何かを期待しているような笑顔が出ます。ベッドへ移動するために別の職員がやってくると、また「ふふふ」と楽しそうな笑顔がこぼれ、「楽しそうだね～」と和やかなやり取りをしています。トイレを済ませた後、一緒にベッドに腰かけて、車いすへの移乗の助けを呼ぶときも「声を出して呼んでみて」と職員が大竹さんに声をかけると、「お～」と小さな声を出して、職員の声かけに付き合ってくれます。「それじゃ聞こえないよ、もっと大きな声で呼んで

みて」と伝えますが、大竹さんは「どうしようかな…」とドアの向こうの様子をうかがっています。職員が待ちきれず大きな声で助けを呼ぶと、そこでまた「あはは～（僕が呼ばなくても来てくれたよ!）」と一枚上手なところを見せて楽しんでます。

音楽療法の時間では、大竹さんの番が回ってくると、硬くなってきている右手を前に伸ばして、指を広げてつかむのか、爪を立てて弾くのか、集中して考えます。手元を見続けていることは難しいようで、ちらりと見て瞬時にどうするのかを決めています。オートハープの弦を弾くときは、きれいな音が出るよう指の角度を工夫しながら、職員の手助けがなくても演奏することが増えてきました。演奏後は緊張からの解放感と、やり切った充実感でホッとしながらも、「僕の演奏どうだった?」と言うようにまわりを見て確認しています。大竹さんにとって音楽療法は思いもよらない楽しいハプニングが飛び出すことがあるので、いつも「さあやるぞ!」と期待をしながら参加することが

みんなの
スペース
メムチっ
バーズ

「フリーザ様 岐阜市」まだまだ暑い日が続きますが、最近朝晩と少し過ごしやすくなってきました。やっと散歩ができるようになり「コッコッ」短い時間ですが歩いていきます。継続は力なり!



同級生の平田さんと



ミキサーにかけた紙を流し込みます

あいだをむ

vol.1

多様なつながりを紡ぎあう社会へ。
「あいだ」をしなやかに、
かるやかに「編む」人たち。
その実践を綴っていただきます。

一般社団法人ヒトノネ
代表理事 篠田花子



「共に育ち合う社会」をモットーに、岐阜市で探究型学童保育ヒトノネ、放課後等デイサービスみちな・みちなキッズ、Imaru個別指導、10代の居場所クリエイターズクラブを運営する。ヒトノネラジオ「はっぴいえんどでなくちゃいや」毎週火曜に、youtubeやApple podcastなどで配信中。ぜひ聴いてください！

おもてなしハウスの夏

岐阜市で育った私は、広い空と川と山が心の原風景。思えば私が子どもを中心とした活動をしているのも、ひとつも同じものはない自然特有の美しさに心を動かされてきたことが原点かもしれません。子どもたちが豊かに育ち、その独自性を保持したままに逞しく生き抜いてほしい。そんな願いを持ちながら、2018年に学童保育を開所しました。運よく、岐阜市早田地区にある公園の中にある自治公民館（いぶきさんと車で5分の距離！）を借りることができ、当時から掲げていた「市民講師を招いた体験的な学び」に興味を持った子どもが通ってくれるようになりました。中には発達特性のある子や不登校児も一定数おり、「ヒトノネは個性派揃いだね」なんて言われることもままありました。スタッフも元教員、精神保健福祉士、人形作家、刀鍛冶、友達が異様に多い人、暫く休職していた人、72歳現役…など粒揃い。得手不得手もそれぞれだから手を取り合うほかないので、自ずと「共に育ち合う」という理念を体現できる組織となりました。



マッサージ屋の子どもと
ヌートリアにマッサージを
施される小森さん

さて、この夏休み、ヒトノネはほとりて夏祭りを開催してもらいました。「おもてなしハウス」と称して、カジノ、カラオケ、マッサージ屋…と子どもと仲間がお店を出しました。「おもてなし」としたのは、「お店は誰かを喜ばせるところだよ」というメッセージを子どもたちに伝えるためです。カジノで仲間が大勝ちをして唖然とした子どもの顔。遊びに来てくれた仲間にマッサージをする子。いつの間にかお店でアルバイトしてお金を稼いだ近所の子。当日は50名以上の来客で盛り上がりました。子どもたちは得た利益でおやつを買って帰りホクホク顔。猛暑の中、助けてくださったいぶきの皆さんはもちろん、先導役の大建met平野さん、地域の方々、そして賑やかすぎる子どもたちに付き合ってくれた仲間の皆さんにも感謝しかありません。ご近所さんだから、ヒトノネだから、お互い様。そんな気持ちでそれぞれこの機会を受け止めてもらったのだろーと思います。寛容さとしなやかさで社会ができていることを、子どもたちと一緒に経験できた夏でした。

多様性を認め、助け合える社会を作りたい。どんな子どもも未来を信じてその人なりの自立ができるようにしたい。彼らがいつか大人になったときに、この美しいグラデーションの空のように、境界線のない社会であるように。そんな綺麗事と思われることを私は伝え続けたいと思います。

できています。紙すきの仕事では大竹さんは、やかんからの水入れや道具を使ったミキサースイッチを担当しています。さらに、休んでいる仲間や不調でできない仲間が担当している仕事を「大竹さん、頼んだ！」とお願いされると、「任せ！」と言うように、目の前に来た道具をじっと見て右手を動かしてはじめます。思うように右手が動かず何度か失敗しながらも、あきらめず任された仕事をやりきろうという姿が見られます。最後にすき上げた紙の水分をタオルで押して、水切りするときの20のカウントでは大竹さんがペース良く声を出して数をカウントしています。ときには他のグループが気になったり、嫌になったりすることもあります。ここでは大竹さんが声を出さなくては前に進まないことをよくわかってるので、がんばって20まで数えてくれます。

ところで、私は異動でこらぼを5年離れていました。その間にコロナ禍でいろいろなことが変わりました。3年前にこらぼに戻ってきたとき、大竹さんのイメージががらりと変わっていました。私が異

動する前の大竹さんはもっと体いっばいに力を入れて「嫌」を伝える仲間でした。どうしたら大竹さんの「嫌」な気持ちを理解できるのか、ケース会議でも議題に上がっていました。大竹さんが嫌なことに当時の職員が一つひとつ向き合い、仕事への取り組み方など、どのようにすれば大竹さんが「やりたい」という気持ちになれるのかを何度もやりとりを重ねながら実践して大竹さんとの信頼関係を築き続けてきたからこそ、現在のおおらかな大竹さんがあるのだと、大竹さんの成長と共に職員の積み重ねてきたことに感銘を受けました。

今でも嫌なことはちゃんと「嫌」と言える大竹さんですが、体いっばいに力を入れて職員の話が耳に入ってこなくなるまでの「嫌」と言う表現はほとんどなくなっています。大竹さんの「嫌」と言う気持ちを受け止め、職員からも「ここはもう少しがんばってほしい」と言うことを伝え、これからもお互いに楽しくやりとりをして、よい関係を続けていきたいと思います。

みんなの
スペース
メッシュ
バーズ

《あざらし／岐阜市》最近レコにハマっています。大人が作っても楽しいですよ。コッパと組み立てていきます。

※ シリーズ ※ わたしと息子といぶきと

いぶきに通う仲間の親さんの手記。わが子の生い立ち、
これまでのことを振り返って、エピソードや自身の想いを綴っていただきます。

松元 徹 (松元 義博さん父)

義博は操病院で生まれました。生まれた時はすぐに泣かず、お尻を叩かれてやっと産声をあげました。「よいことをひろめるように」との願いを込めて「義博」と名付けました。赤ん坊の頃は夜中によく泣くので、抱っこをしました。歩き出すのも、しゃべるのも遅く、幼稚園に通うようになってからも体は小さく、いつも背の順で一番前でした。



8ヶ月の頃

小さい頃はとてもよく動く子でした。入学式でも落ち着かず、じっとしていられなかったのが、捕まえていなければなりませんでした。学校へは一人で通えず、朝は弟が連れて行き、母親が帰りに迎えに行きました。弟はよく義博を気にかけて連れて行ってくれました。



小学生の遠足

学生時代は「いいか?」と言われると何でも「いい」と返事をしてしまうので、自転車やタイヤを切られたり、給食費を取られたりということもありました。地域の方が「何やってる」と注意してくれて、気にかけてくれました。中学2年生のとき、大学を出たばかりの女の先生が担任となり、義博をよく見てくださいました。その先生が義博を東京への修学旅行に連れて行ってくださいました。今でも年賀状をやり取りしています。良い先生に巡り合うことができました。

中学を卒業すると、就職して、私の仕事場へ連れて行きました。瓦をリフトに載せる工場の仕事でしたが、良品も不良品



中学1年生

も区別なく積んでしまうのでよく叱られました。始業のベルが鳴っても動き出せず、休憩のベルが鳴ると一目散に自販機へ走っていく姿は今も目に浮かびます。夏場の工場はとても暑く、体力的にも大変でしたが、それでも義博はよく頑張りました。

2年ほど働いた後、「いぶき」に行くことになりました。いぶきの林さん(現理事)のお父さんと昔から知り合いで、ちょうど林さんが共同作業所をやるからと誘ってくださいました。当初はなかなか支度が進まず、特に雨の日は雨が降り出すまで家を出られずに苦労しました。いぶきからの帰りも時間がかかり、切り替えが難しかったです。また、お金のこだわりが強く、お金を手にするとそのまま近くの自販機へ走っていき、お金が無くなるまでたくさんジュースを買って飲んでしまっていました。しかし、だいが変わってきました。最近では「コーヒーを飲んでからいぶきに行くよ」と言うので自分で準備し、コーヒーを飲んだ後に私たちが外で待っているとしばらくして出てきます。お金も500

円玉なら必要な分だけ買い、お釣りをきちんと財布に戻せるようになりました。今はグループホームで暮らしています。義博はこだわりが多く、セロテープやガムテープをちぎっては並べたり、部屋の電気を順番に点けたり消したりしています。気になることがあると落ち着かず、なかなか寝ない夜もあります。それでも少しずつ自分なりに生活をしています。

休日には私と喫茶店やお風呂に出かけしています。行きつけの喫茶店では、私だけで行くと「よっちゃん?」と聞かれます。義博と一緒にいくと氷の入った水は氷がなくなるまで動けないので、氷なしで水を出してくれます。いろいろおまけをしてくれるんですが、おつりを余分に渡されると自販機まで走ってしまうので「おまけはやめてください」とお願いしています。店主も常連客も「よっちゃん」と呼んでかわいがってくれています。これから先に特別な望みはないですが、病気や事故などなく、自分らしく、穏やかに毎日を過ごしてほしいと心から願っています。



自分のお給料で買って飲んでいる松元さん

みんなの
スペース
メふちっ
こーず

「いけ」/本集市 今月は誕生日のある月でした。家族から、普段お世話になっている方々、中々会えない方々、遠方の方までたくさんのおめでとくをもらいました。この慌ただしい日々を意識することは中々に難しいことですが、人とのつながりを大切にしたいと思える日になりました。

「福張り子」の物語

第二いぶきの「福張り子」は新聞紙粘土を土台とした型に美濃和紙を少しずつ貼り重ね、つくりあげた張り子です。この福張り子は他施設のお手伝いから始まりました。今では定番のねこに加え毎年恒例になった干支張り子もあります。ねこの張り子はいぶきだけでなく岐阜県美術館でも販売されており、心癒される商品として愛されています。



北部事業部 溝口 里恵

「福張り子」は一つひとつ手づくりのため、表情や大きさが少しずつ違って、素朴な風合いが自慢です。

そんな「福張り子」は、同じ第二いぶきのころばで美濃和紙をつかったノートを作っていたこともあって、にじでもこの美濃和紙をつかって何かできるんじゃないかな？と張り子づくりが始まりました。

たくさんの工程の中で仲間たちが取り組んでいる仕事は、主に新聞紙粘土づくりです。最初の工程は新聞紙を細かくちぎっていく作業です。いつ終わりのかが分かりづらい工程ですが、職員と一緒に右手で新聞紙を握り、その右手を目印に自然と左手が出てきます。紙がちぎれる音を耳で確認し、長く紙がちぎれたら長い音が聞こえ、ちぎれ



紙がちぎれる音を聞きながら破ります

た達成感を感じ、笑みが漏れます。この作業は20分行うので途中で集中力が切れてしまうこともありますが、仲間からの応援、感謝の言葉、頑張っている仲間の姿に再度、仕事へと気持ち切り替わります。

ミキサーの工程は順序が決まっております。



カウン트에合わせて水切り

見通しが持ちやすくスムーズに進んでいきますが、時々自分の思いと違い、手が止まってしまうこともあります。その間、待ち切れない仲間は先に進めたいと手を伸ばす姿が見られますが、「いま頑張っているところだよ」と伝えると自分の手を引き、相手に任すところ、任されることを意識してあたたかく見守ってくれます。得意・苦手な工程を仲間どうしで補い、ときには温かく見守り、お互

いに掛けあう言葉や行動が仕事への活力となり、やる気、自信へとつながっていきます。

張り子づくりを通して仲間たちの姿も少しずつ変化してきました。以前は少人数で仕事はじめて終わりに挨拶したい人が前に立っていたのですが、最近はみんなが挨拶したいと前に立つので、仕事席がガラガラに……。みんなピシッと前に整列して挨拶をしています。こんな姿が見られるのも、仲間たちが張り子の仕事を楽しんでいる気持ちの表れだと感じます。

数年前より岐阜県美術館でガチャに入



みんなで仕事の終わりの挨拶！

れたねこの張り子の販売が始まり、昨年からほとりへのねこ張り子の納品も始まりました。納品先が増えたことで自分たちが作った商品を届ける楽しみでもできました。

また「にじ」全員で選んだものが商品

になっていくのも、楽しみのひとつです。干支張り子は毎年人気の商品ですが、春先から試作がはじまり、全員でどれを商品にしたいか投票。選ばれたものが来年の干支張り子の原型となって干支づくりが始まります。

張り子一つひとつ手づくりで時間の



岐阜県美術館へ納品

かかる商品ですが、携わる仲間たちが作りあげた、世界にひとつだけのかわいい張り子をたくさんの人の手に取ってもらえることを願いながら、これからも素敵な張り子を仲間とともに作り続けていきたいです。



みんなの
スペース
メふちっ
バーニ
ズ



「こまちゃん／岐阜市」子どもが高校生になり、家にいる時間がぐっと減りました。寂しさを感じつつ、目下の課題は「暮らしは必要？ 要らない？」の調整。予定は気まぐれに変わるもので悩ましいですが、電子レンジでチンするだけで本格的なスナックが完成。冷食の進化に救われています。

01 りすのほっぺマーマレードプロジェクトウィークを開催しました

2025年4月24日(木)から29日(火・祝)の6日間、ぎふメディアコスモスで「りすのほっぺマーマレードプロジェクトウィーク」が開催されました。社会課題の解決に取り組む団体と、よりよい地域づくりを目指す企業が連携し、地域に「ありがとう」と笑顔を広げることを目的とした取り組みです。活動報告会では昨年の協働内容や新たに加わった企業が紹介されました。

藤井克徳氏による障害者権利条約の講演会や「親なきあと」を考える学習会では、未来の支え合いについて語り合いました。期間中、ドキドキテラスでは、プロジェクトを紹介するパネル展や、関係団体による出展など、多彩なプログラムで市民との交流を深めました。写真家・福島あつしさんの写真展は来場者の心に静かな感動を届けました。さらに、新聞立体づくりや缶バッジ制作などの体験型ワークショップ、企業によるかんなくずのバラの花作成の実演も好評でした。

仲間もワークショップやラジオに参加し、地域の方々と交流。最終日のハッピーマルシェではジャムやお茶が並び、家族連れでにぎわう温かな雰囲気に包まれました。福祉と企業、地域がゆるやかにつながり、「ありがとう」と「よかったね」があふれる時間となりました。



ハッピーラジオには、仲間も出演



ありがとうの木にメッセージ



活動報告会



寄付金贈呈



新聞紙を使ったワークショップ



出来上がった巨大風船に入って遊びました



ハッピーマルシェでは、仲間と接客

02 ダルメインWorldマーマレードアワード受賞報告会 りすのほっぺマーマレード4年連続受賞!

9月23日(火)ぎふメディアコスモスにて「ダルメインWorldマーマレードアワード&フェスティバルinJapan」でマーマレードの受賞報告会を開催しました。

柴橋正直岐阜市長や、りすのほっぺアンバサダー粥川なつ紀さんをはじめ取引先や生産者、関係各所含め総勢30名以上の方々にお越しいただきました。

スタッフ一人ひとりのがんばりと、会場に足を運んでくださった皆さま、そして日頃から応援してくださる皆さまのお力添えがあってこそ、この受賞につながったのだと改めて実感しました。仲間たちは堂々とした表情で日ごろの仕事の様子を伝えることができました。これからも「りすのほっぺらしく「美味しい・楽しい・ほっぺポンポンの幸せ」をお届けできるよう励んでまいります!

これからも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。そして皆さまと一緒に、マーマレードやジャムのある幸せな時間を作っていきたいです。



これまでの受賞歴

2022年:金賞(金柑)、銀賞(八朔)

2023年:銀賞(甘夏)、銅賞(八朔・日向夏・伊予柑・パニラ)

2024年:金賞(甘夏)、銀賞(伊予柑・パニラ)、銅賞(八朔黒糖・八朔)

2025年:金賞(甘夏カカオ・八朔黒糖クロープ)、銀賞(八朔黒糖シナモン)、銅賞(伊予柑カカオ・甘夏パニラ)

合計:金賞4点、銀賞4点、銅賞7点、計15点



会場の様子



歴代の賞状



粥川なつ紀さん



仲間の仕事ぶりを紹介しています



ダルメイン
世界マーマレードアワード&フェスティバル

みんなの
スペース
メンバース
ーズ

《川瀬・岐阜市》毎日農作業をしています。すぐそばにあった夏が終わる、ようやく気持ち良い空の下で頑張る!と思っていたら今度は蚊の大群が:快適な農業シーズンはまだ少し先のようです(笑)



03 第3回ハッピーすまいるフェスティバル

昨年、大好評だったイベントが、今年も第二いぶきで開催されます。ものづくりワークショップや工房見学、キッチンカーも来るよ！みんなが笑顔になれる盛りだくさんのイベントです。ご家族そろってお気軽に遊びにきてね～

○日時:11月22日(土) 10:30～15:00
○場所:第二いぶき・パストラルいぶきD棟
〒501-2501 岐阜市出屋敷493
○お問合せ先:058-229-6464(山口・矢島)



昨年の様子

04 ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにご協力をおねがいします。

まちなか「えんがわベンチ」プロジェクト

岐阜の街に気軽に休める「ベンチ」を増やしたい！仲間と散歩や外出をするなかで、日々感じている「気軽に休める場所」が少ないということ。地域の中で、えんがわのようにほっと安らぎ、身体を休めたりできるベンチ。地域の人々のゆるやかだけど確かなコミュニティがうまれます。「えんがわベンチ」を増やすプロジェクトにぜひご参加ください。



詳しくはこちら

05 いぶきファミリー会員(個人・法人)募集と、更新のおねがい

寄付や会費がいぶきの推進力になります。
いぶきの活動を継続的に応援していただけませんか？

寄付・遺贈寄付のご相談は、
いぶき福祉会まで 058-233-7445

種類	応援のカタチ	お届け	お申込み方法
個人	共感やアクションで応援 (会費はいただきません)	会報誌	お申込みは こちらから⇒ (登録フォーム)
	月250円(年3,000円)	会報誌・年次報告書	①月払いは こちらから⇒ (えんがわマルシェ)
	月500円(年6,000円)		
法人	月1,000円(年12,000円)	会報誌	②年払いをご希望の方はご 一報ください。(郵便振替・ 銀行口座引き落とし)
	月3,000円(年36,000円)	年次報告書	
	月5,000円(年60,000円)	オリジナル商品	
	月10,000円(年120,000円)		

税額控除対象法人です

社会福祉法人いぶき福祉会は2023年3月16日に税額控除対象法人になりました。これにともない、同日以降のいぶき福祉会へのご寄付(いぶきファミリー会費も寄付と同様の扱いとなります)は、税制上の優遇措置として、所得控除と税額控除を選択できるようになります。なお、控除を受けるためには確定申告が必要です。所得などご本人の状況により異なりますので、詳しくは最寄りの税務署へお問い合わせください。



みんなの
スペース
メー
ンバーズ



《ともしろう／岐阜市》 休日は家でんびりし倒すのが好きな私。外出も家族を巡る程度。ここどこへ歳のせい？、自分にムーブメントを起こすのだ！と考えてみた。そんなわけで、今度、母を連れて車中泊旅行を計画。母も案外乗り気だ。きつと新しい発見ができるにちがいない。このわくわくだけで結構楽しめるんじゃないか★(本音にいくのかw)